

## 検疫上注目される病害虫の解説

アメリカキヨトウ 学名：*Mythimna unipuncta* (Haworth)  
英名：armyworm、rice armyworm

本種は日本未発生でヤガ科ヨトウガ亜科に属する。イネ科植物の害虫として知られているが、輸入植物検疫では、アメリカ産の生鮮ブロッコリー、アスパラガス、コリアンダー及びレタスなどから発見事例があり、いずれも成虫態で発見されている。

**分布地域：**北アメリカ、南アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ及びイラン、トルコ、パキスタン等の西アジア。

**寄主植物：**トウモロコシ、コムギ、オオムギ、アワ、チモシー等イネ科植物を主な寄主とするが、アルファルファ等マメ科植物、ブロッコリー等アブラナ科植物、トマト、ジャガイモ等ナス科植物等の様々な植物で被害が報告されている。

**形態：**翅の開張は37-45mm（前翅長約18mm）。頭部と胸部は褐色で、腹部は灰色。前翅には翅頂部から後縁に向かって走る黒色～暗褐色の前剣紋（a）、白色の中室端紋（b）、淡色の環状紋（c）及び腎状紋（d）を有する（図1）。

**識別：***Mythimna* 属を含むキヨトウ族には斑紋の似た種が多く、正確な種の識別には成虫の交尾器を確認することが望ましい。

本種も国内既発生のアワヨトウと斑紋が似ているが（図2）、図3及び4に示すおり、雄交尾器では valva 腹方の拡張部（e）がアワヨトウよりも幅広く、cucullus 背方部の突起（f）がアワヨトウより短い、雌交尾器ではアワヨトウに比べて appendix bursae（g）が大きくねじれ、ductus bursae（h）の手前をほぼ直角に

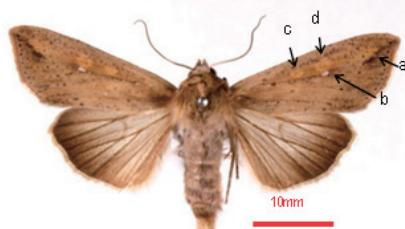
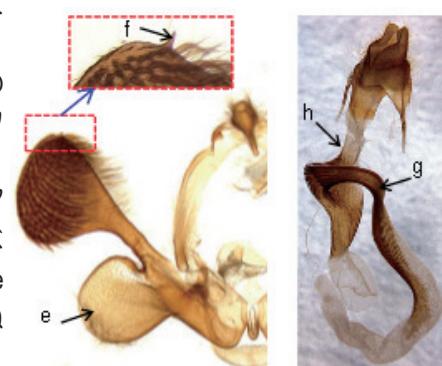


図1 アメリカキヨトウ雌成虫

図3 アメリカキヨトウ交尾器  
(左：雄、右：雌)

横切るといった点で識別可能である。

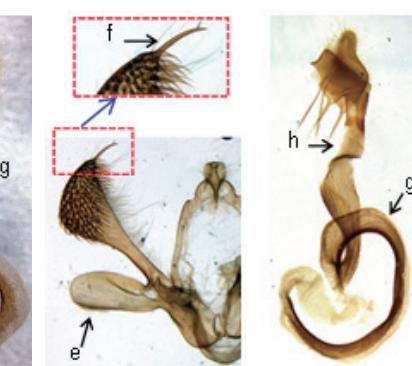
**生態：**卵は葉鞘や茎等の狭い場所に列状の卵塊で産卵され、6～12日でふ化する。幼虫は若齢期は群生し新葉を日中に加害するが、中齢期以降は夜間に単独で加害し、日中は寄主植物の陰や地際部に隠れている。また、幼虫は化した場所の寄主植物を食べ尽くすと、集団で他の場所に移動するといわれている。幼虫は3～4週間で老熟し、寄主植物の株元や土中で蛹化する。成虫は夜行性で日中は物陰に隠れているが、夜になると活発に飛び回る。本種は休眠しないため、温暖な地域では年間を通じて発生するが、高温期を挟み寒冷な地域と季節的な移動を行っていることが示唆されている。

**被害：**本種は突発的に大量発生し、特に湿度の高い春に個体数が多くなる傾向がある。被害が最大となるのは春の幼虫期であり、寄主植物の柔らかい葉、未熟種子、新芽などが加害される。

**防除：**発生国では薬剤散布による防除のほかに、集団で移動する幼虫に対する物理的防除法として、ほ場の周囲に深い溝を掘り、水を張って幼虫の侵入を阻止している。



図2 アワヨトウ雌成虫

図4 アワヨトウ交尾器  
(左：雄、右：雌)

### 主な参考文献

Carter, D.J. (1984)  
Pest Lepidoptera of Europe. Dr W. Junk Publishers: 431pp.

Powell, J.A., Opler, P.A. (2009)  
Moths of Western North America. University of California Press: 369pp.